



今回のテーマ

# 「事後研」を活性化させる工夫

授業研究のカギを握るのは、授業を公開した後に行う事後研究会（事後研）だ。さまざまな視点からの意見を受け止め、分析することによって、授業者は自分の授業を客観的に把握でき、改善への糸口を見つけやすくなる。今号では、授業者が主体となって活発に意見を交換している事後研の事例を紹介する。

事例

北海道網走市立東小学校

## 授業者中心に議論を進め、短時間で授業改善につなげる

付せんを活用した  
ワークシヨップ型検討会

網走市立東小学校では、全学級で年4回の交流授業（公開授業）を行い、その日の放課後に参観者全員が出席する40分間のワークシヨップ型検討会を開いている。参観者は授業を見ながら、「よいと思う点」を黄色の付せん、「自分ならこうする点」をピンクの付せんに書いておく。

検討会では、まず授業者が授業のポイントを端的に発表した後、授業のよかった点について10分間、改善

点について20分間話し合う（図1）。

その際、参観者は付せんの内容とそう考えた理由を発表しながら、付せんを授業者に渡す。研究主任の後藤亜希先生は、付せんを使う利点を次のように話す。

「短い文章で気負わずに考えを述べられるため、若手の先生を含む全教師が積極的に意見を出せます」

石田篤司校長は、教師全員で事後研をつくる雰囲気も大切だと話す。

「管理職も一参観者として出席しますが、若手の先生の意見にベテランの先生がうなずくこともしばしば

です」

授業者は2色の付せんをそれぞれ別のワークシート（図2）に貼り、発言の趣旨ごとに分類し、見出しを付ける。授業者が主体となつてその場で分類することを重視していると、秋山康則教頭は話す。

「参観者からの意見を授業者自身が整理することで、本時の最大の改善点を見極められると考えています。今後の授業改善の設計図を自らの手で作る作業と言えるでしょう」

授業者は、検討会の内容やそれを踏まえた改善点を「反省用紙」にま

とめ、次時の授業から実践する。

「既にポイントはワークシートに整理しているため、反省用紙作りには手間がかかりません」（後藤先生）

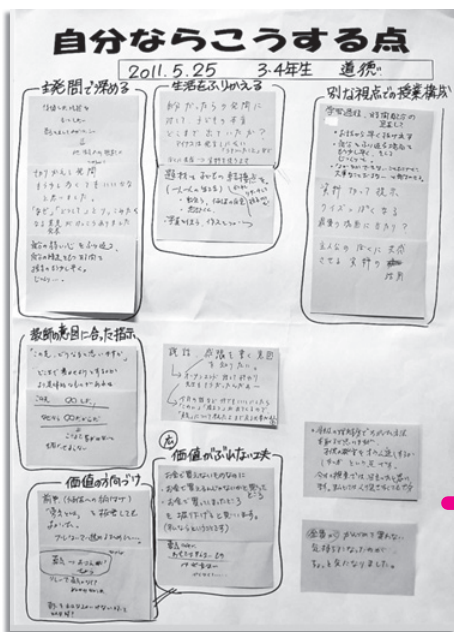
授業者が参観者から意見を引き出すと努めていることも、同校の検討会の特徴だ。

「『今の意見に関連して何かありませんか』と、先生方に問いかけます。授業者が『もっと意見を聞かせてほしい』という謙虚な姿勢を見せ、参観者の発言に耳を傾けてこそ、誰もが発言しやすい雰囲気生まれると思います」（後藤先生）

## 図1 検討会の流れ

話し合いの時間は短めに設定し、ストップウォッチで管理。他者の発言を待つのではなく、参観者に進んで発言してもらおうというねらいだ

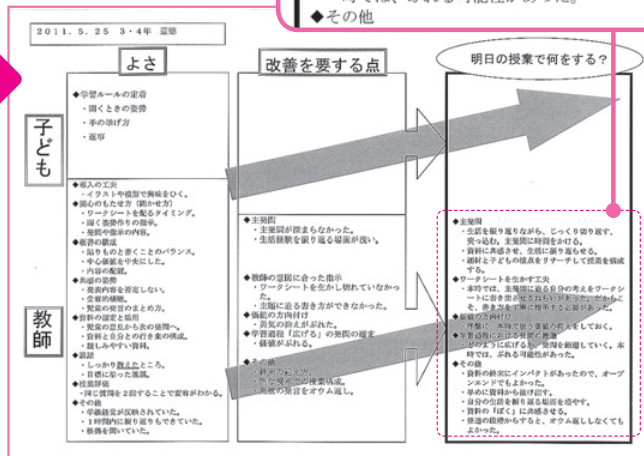
①授業者による授業のポイント・反省(1~3分)	授業のねらいや工夫した点、授業後の反省などを授業者が参観者に説明
②「よいと思う点」についての検討(10分)	参観者が「よいと思う点」についての付せんを授業者に渡し、簡潔に意見を述べる。授業者は意見を聞き、付せんをワークシートに分類しながら貼る
③「よいと思う点」のまとめ(3分)	授業者が付せんを貼り終えたシートを見ながら、自分の授業のよかった点を振り返る
④「自分ならこうする点」についての検討(20分)	「よいと思う点」と同様に、参観者が意見を述べ、授業者がワークシートに付せんを貼る。「なぜ改善が必要か」「どう改善するか」という踏み込んだ話し合いに発展させるため、「よいと思う点」よりも話し合いの時間を長く取る
⑤「自分ならこうする点」のまとめ(4分)	授業者は付せんを貼り終えたワークシートを見ながら、翌日からの授業改善の見通しを述べる



## 図2 「ワークシート」(左)と「反省用紙」(下)

貼る付せんの種類に合わせて、「よいと思う点」「自分ならこうする点」の2種類のワークシートを用意。参観者一人ひとりから渡された付せんを授業者が分類し、見出しを付ける。用紙の大きさはいずれもA3で、左は「自分ならこうする点」の例

- ◆主発問
  - ・生活を振り返りながら、じっくり切り返す、突っ込む。主発問に時間をかける。
  - ・資料に共感させ、生活に振り返らせる。
  - ・題材と子どもの接点をリサーチして授業を構成する。
- ◆ワークシートを生かす工夫
  - ・本時では、主発問に迫る自分の考えをワークシートに書き出させるねらいがあった。だからこそ、書き方を丁寧に指示する必要があった。
- ◆価値の方向付け
  - ・序盤に、本時で扱う価値のおさえをしておく。
- ◆学習過程における発問の厳選
  - ・どのように広げるか、発問を厳選していく。本時では、ぶれる可能性があった。
- ◆その他



授業者は検討会后、ワークシートを基に、次の授業に生かす改善点をまとめた「反省用紙」を作成。次時以降の具体的なアクションにつなげる重要な過程だ

「反省用紙」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます  
<http://benesse.jp/berd/>→情報誌ライブラリ(小学校向け)

### 北海道網走市立東小学校



校長 石田篤司先生  
 児童数 53人 学級数 7学級(うち特別支援学級2) 教員数 14人  
 所在地 〒099-3111 北海道網走市藻琴225  
 TEL 0152-46-2770  
 URL なし E-mail [higashi@study.hs.plala.or.jp](mailto:higashi@study.hs.plala.or.jp)  
 公開研究会 2011年10月28日(金)

◎1985(昭和60)年、小規模校6校を統合して開校。教師全員が積極的に発言する授業研究を目指して、2010年度からワークショップ型の検討会を実施している。周辺の小学校との交流授業も盛ん。



後藤亜希  
Goto Aki

「常により良い授業研究のあり方を考え、試している。模擬授業も他の先生方の2倍多く行おうと努めている」



秋山康則  
Akiyama Yasunori

「普段から一人ひとりの子どもの良さが生かされ、学習状況に合った授業かどうかを見よう心掛けている」



石田篤司  
Ishida Atsushi

「子どもとの関係づくりや学級運営など、大局的な観点から授業を見て、良い点を中心に先生方に伝えている」

授業研究に学校全体で主体的に取り組みたい「心」掛けていこう